



笑って、泣いて、町を知る  
利府の感動物語を皆様へ。

利府町民劇団『ありのみ』の第26回公演が、3月11日・12日の両日、リフノスでいよいよ開幕します。出演者は、3歳から77歳までの利府町民26名。団長の赤間さんは、「私も全くの初心者でしたが、未経験の町民が

力を合わせて舞台を創り上げていくという心意気に感動し、平成9年の旗揚げ公演から出演しています」と話します。毎年秋口から出演者を募集し、11月頃から練習を開始、約半年で劇を仕上げていくとのこと。台本、演出、舞台製作、広報まで、すべて利府愛あふれる劇団員の皆さんが手掛ける、まさに唯一無二のお芝居です。

「十符人（とふと）」では、毎月、利府の魅力づくりや魅力発信に貢献している方を取り上げていきます。

# 十符人

ーとふとー



## 利府町民劇団「ありのみ」

あかま ちようえつ いしかわ しげこ  
団長 赤間長悦さん(写真左) 副団長 石川茂子さん(写真右)  
平成8年(1996年)、町おこしの一環として発足。平成9年に第1回目の旗揚げ公演を行い、以後27年間にわたって、利府町の歴史や民話などをテーマとしたオリジナルの演劇を毎年上演。出演者はもちろん、脚本から演出および舞台製作、広報まで、利府町民を中心とする劇団員が手掛ける。平成23年(2011年)利府町文化功労賞受賞。



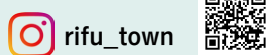
第25回公演 利府浪漫街道 第二話  
「藤田めをと桜 えみしの夢よ、花と咲け！」(2022年3月)

演劇経験者の石川副団長は、「お客様からの拍手を体全体で浴びる感激は、とても忘れられるものではありません」と、その魅力を熱く話します。世代も職業も異なるメンバーが、和気あいあいと交流できるのも楽しいですね」と、赤間団長。今年の演題は『山線ものがたり』。明治23年から昭和37年までの間、利府を通り東京と青森を繋いでいた山線。その沿線に生きた人々の熱情と、当時の町の人々の暮らしを描いた名作です。「舞台と一緒に楽しみながら、利府をより深く知って欲しいですね。ぜひ会場へお越しください！」と、声をそろえるお二人。『ありのみ』では、新しい団員も募集中とのこと。興味のある方、参加してみませんか。

## 利府町公式Instagram



利府町公式Instagram「みやぎ利府歩き」では、皆さまからの利府町に関連する投稿を募集しています。公式アカウントをフォローの上、**「#利府歩き」****「#りふあるき」**を付けて投稿してくださいね。



@kubo.shinさん(冬の雪の中の子馬)



@tsushima-1281さん(神谷沢にある熊野神社)

#りふあるき

## 編集後記

今年の冬は雪も少なくあまり寒くないのかな・・・と思いきや、1月の突然の大寒波・大雪で東北の冬の厳しさを改めて思いました。最近は少しずつ寒さも緩み、春の陽気を感じる日もありますが、そうすると次にやってくるのが花粉症の季節。まだまだ油断できない日々が続きますので、皆さま体調の変化には十分に注意してくださいね。

